



血栓(けっせん)の薬

～血液を固まりにくくする薬(抗血小板薬・抗凝固薬)



血栓とは？

血管の中で血液が固まって塊になった状態を「血栓(けっせん)」といいます。また、血の塊などが血管の中を流れ、その塊が血管を塞(ふさ)いでしまうことを「塞栓(そくせん)」といいます。いずれも血管が詰まってしまうので、その先に血液が流れなくなって、その部分の組織が障害を受けてしまいます。

血栓を作ってしまう病気は多岐にわたります。これらの病気には、血液を固まりにくくする薬(いわゆる、血液をサラサラにする薬)が処方されることがあります。

血栓や塞栓で起こる病気の例¹⁾

心筋梗塞 (しんきんこうそく)	心臓に酸素と栄養を送る血管(冠動脈)に血栓ができて、心臓の細胞に血液が行かなくなる。強い胸の痛みがあらわれる。
脳梗塞 (のうこうそく)	脳の血管が詰まって、脳の一部分に血液が行かなくなる。詰まる原因としては、脳の血管で血栓ができる場合と、心臓など他の部分でできた血栓が脳に運ばれて脳の血管を塞ぐ場合(塞栓)がある。ろれつが回らなくなったり、体の片側が麻痺したりする。
エコノミークラス症候群・ ロングフライト症候群 (深部静脈血栓症、肺塞栓症)	狭い場所に長時間同じ姿勢でいることで、足など下半身の奥の方にある静脈(深部静脈)に血栓ができ、それが肺に運ばれて肺の血管を塞ぐことで、肺の組織に血液が行かなくなる。 胸の痛みや呼吸困難が起こる。

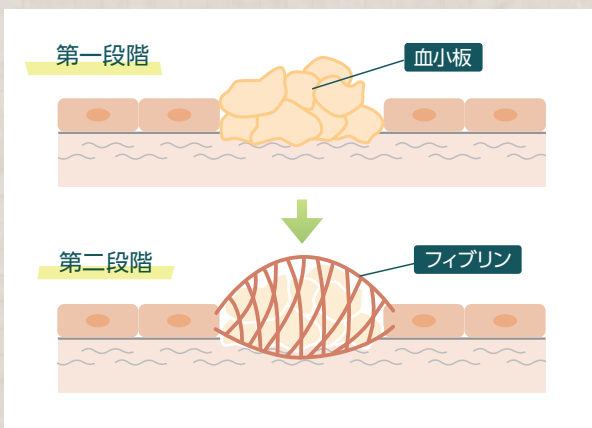
血栓の作られ方

血栓は、そもそもは出血を止めるために血液が固まる「止血(しけつ)」という体の防御反応が、通常は起こらない血管の中で起こってしまうためにできてしまうものです。

止血のしくみ

止血は、2段階で起こります。まずは、血小板という血液の成分が血管の傷ついた部分に集まって塊を作り、傷を塞ぎます(第一段階)。

そこに、この塊をより強固なものにするため、血液中の「血液凝固因子」と呼ばれるものが、複雑に反応して、最終的に「フィブリン」という糊(のり)のようなものをつくり、これが血小板の塊を補強します(第二段階)。



この止血のしくみが血管内で起こると、血栓の原因になります。通常、血管内は血栓が作られにくい状態になっています。しかし、血管が傷つきやすい状態になっていたり、血流が悪かったりすると血栓ができやすくなります。

血栓ができやすい状態

血管が傷つきやすい	コレステロールや高血圧などが原因で起こる動脈硬化(動脈が厚くなり、硬く、もろくなった状態)などがあると血管が傷つきやすい。
血流が悪い	手術後、飛行機の中などずっと同じ姿勢でいたり、心臓のリズムが乱れたりすると、血流が悪くなりやすい。

血栓の種類

血栓は、大別して、「白色(はくしょく)血栓」と「赤色(せきしょく)血栓」があります。白色血栓は白い血小板が主体で、赤色血栓は赤い赤血球を含む血栓なので、そう呼ばれています。

傾向として、血管が傷つきやすい場所には白色血栓、血流が悪い場所には赤色血栓がしやすいです。

	白色血栓	赤色血栓
できやすい場所	動脈(血流の速い場所)	静脈(血流の遅い場所)
できるしくみ	血管にできた傷などに、血小板が集まってできる。	血流が滞った場所にてできる。血液の流れが遅いので、血液凝固因子が働きやすく、赤血球なども取り込んだ血栓が作られる。
何でできている?	血小板とフィブリン	赤血球とフィブリン

血栓の薬

血栓が作られないようにするためには、血栓が作られる過程のどこかを抑えればよいということになります。血栓が作られるのを防ぐ薬としては、血小板の働きを抑えるアスピリンなどの「抗血小板薬(こうけっしょうばんやく)」や、フィブリンが作られるのを抑えるワーファリンなどの「抗凝固薬(こうぎょうこやく)」が使われます。

原則としては、血小板が主体の「白色血栓」には「抗血小板薬」、血液凝固因子の働きが活発な「赤色血栓」には「抗凝固薬」が使われます。しかし、実際の

血栓は血小板と凝固因子が複雑に反応してできているので、それぞれの患者さんの血栓の背景を考えて、薬が使い分けられたり、併用されたりします。



	抗血小板薬	抗凝固薬
血栓を抑えるしくみ	血小板の働きをおさえて、血液が固まるのを防ぐ。	血液凝固因子の働きを抑えて、フィブリンが作られるのを抑える。
代表的な薬	アスピリン(バイアスピリン、バファリン81mg)、パナルジン、プラビックス、プレタール	ワーファリン、プラザキサ、リクシアナ、イグザレルト、エリキュース

血栓の薬を飲んでいる時の注意点

これらの薬は、出血した際、血を止めるのに必要な血栓ができる過程も抑えるので、出血しやすくなる(血が止まりにくくなる)という副作用があります。

- 血尿、血便、原因不明の出血、出血が止まらないなど、普段と違う症状が出た場合は、医師に連絡してください。
- 自分の判断で薬を飲むのを止めたり、量を調節したりしてはいけません。
- ケガをするおそれのある仕事や運動はなるべく避けましょう。
- 抜歯や手術の予定があるときは、早めに医師と相談してください(手術の程度によって、薬を休む場合や、そのまま薬を飲み続ける場合があります)。
- 他の医療機関を受診する際は、「血液を固まりにくくする薬」を飲んでいることを伝えてください。



【参考・引用文献】

1) MSD: メルクマニュアル医学百科 家庭版 <http://www.merckmanuals.jp/home/index.html>